

## 令和3年度 静岡社会健康医学大学院大学入学式

### 学長式辞

皆さん、こんにちは。学長の宮地です。

今日ここに、新設されたばかりの静岡社会健康医学大学院大学の映えある一期生として、19名の皆さんを新たな仲間にお迎えできることを本当に嬉しく思い、心から歓迎します。

ご承知のように、本学は本日ご臨席の静岡県の川勝知事や京都大学の本庶佑先生をはじめとする多くの人々のなみなみならぬ熱意と思い入れとにより、静岡県民の健康長寿の延伸や静岡県における医療専門職の充実と定着を図り、静岡県内外の医療をさらにレベルアップするために5年ほど前から設置の準備が進められてきました。そして昨年秋に大学院の設置認可が下り、晴れて本日、第一回目の入学式を挙行することになったわけです。

その意味では、私たち教職員もいわば新入生であり、皆さんとともに新しい大学院の形を模索しながら、県民の付託と社会からの要請に応えるような大学院づくりをともに担うべく、身震いするほどの緊張感を持って今日のこの日を迎えました。

私たちの大学院は学部のない単科の大学院大学であり、皆さんのような実務経験を有する社会人を大学院生として迎え、社会健康医学という医療における重要な分野の実践的な研究を推進することでその成果を社会に還元するというミッションを持った、極めて斬新かつ先端的な特徴を有しています。

皆さんは医療の多彩な分野における実務経験の中から感じた素朴な疑問や乗り越えるべき問題点を社会健康医学という新しいスキルと知識を学ぶことで解決したいと考えて本学の門を叩いたことと思います。多忙な日常業務の中から貴重な時間を捻出して新しい学問体系を学び、自らをさらに高めようとされた皆さんの高いモチベーションと前向きな姿勢に心から敬服します。

私は何か新しいゴールを達成するために必要なことが三つあると思っています。それは気力、体力、そしていい意味での野心です。皆さんはいままでとは異なる社会健康医学という新しい手法を学ぼうと決断された時点ですでに十分な気力をお持ちです。心身の健康という意味での体力もこれまでの実務経験の中でこれまた十分に培われてきたと思います。ですから、大学院修了後、地域や元の職場で是非リーダーシップを発揮されて周囲の仲間たちのボトムアップを図り、地域医療さらには日本の医療を変えていくんだという気概あるいは野心を是非持っていただきたいと思います。それがやがて地域のみではなく我が国の医療をめぐる諸問題を切り拓くパワーとなり、いずれは国際的な視野を持った医療人の意識改革に繋がると私は信じています。

昨今のコロナパンデミックを見るまでもなく、いま臨床医学の新しい指針の決断には社会健康医学の素養が必須となっています。MPHを取得するということは実践的な社会医学研究ツールを実装してそれぞれの医療分野に舞い戻ることを意味します。是非、大学院を志した今日の初心を忘れずに、いまの困難な医療の状況を変革するという夢を胸に秘めて社会健康医学を学んでいただきたいと思います。

私が30年前に縁もゆかりもなかった群馬大学にたったひとりで着任することになったとき、あたらしい環境に赴く不安を抱えた私に、恩師が「ともに手を携えて相語らん」ということばを色紙に揮毫してくださいました。「知らない人たちと一緒に手を携えて共通の目標を達成しなさい」という意味だったと思います。今日、ここに貴重な第一歩を踏み出す皆さんに同じことばを「はなむけ」とさせていただき、式辞に代えさせていただきます。改めまして、本日のご入学まことにおめでとうございます。